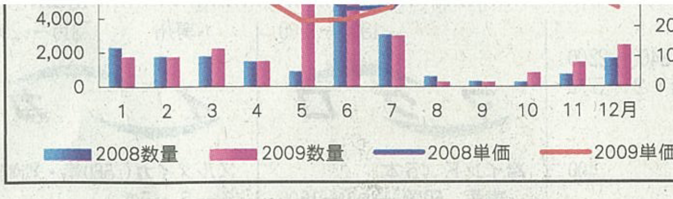

に日量20～30㌧ク
が散発している。
（東京支社・中尾浩
原則として毎週月
日掲載）

月末在庫量（冷蔵水産物流通統計）は前年同月比7%減の117万9681㌧だった。品目別ではカツオ、マス類、貝類、タコ類が増加。一方、マサンマ、スルメイカ、スケソウすり身が減少した。

在庫量はカツオ3万1373㌧（前年同月比12%増）▽マス類1万2239㌧（同17%増）▽貝類3万4063㌧（同576㌧（同39%増）。減少した魚種別在庫量はエビ6万9445㌧（同11%減）▽サバ類10万915㌧（同11%減）▽サンマ6万7776㌧（同16%減）▽スルメイカ5万（同21%減）▽メバチ1万1209㌧（同32%減）▽キハダ1万5749㌧（同19%減）▽その他2万3675㌧（同9%増）だった。

ガンビアの魚市場建設支援

柴田熔接工作所　製氷機など設置

現地アフター体制も築く

【福岡】冷熱プラントメーカー、柴田熔接工作所（本社・福岡市、柴田勝紀社長、㊇092・501・9798）はこのほど、日本政府がODAでJICA（国際協力機構）を通じて協力する西アフリカ西岸のガンビア共和国の「ブリカマ魚市場」建設で、製氷機や鮮魚倉庫（チラールーム）設置など鮮魚保蔵設備の面を支援した。

ガンビア共和国の水産局責任者（中央）と技術スタッフら。右端が柴田社長

魚市場建設のブリカマ市は、経済発展が進む沿岸部と農業を主体とする内陸部を結ぶ交通の要衝にあり、国内人口の3割弱に当たる39万人が居住する西部行政地区の中心地。現在、鮮魚販売は市場内に散在する露天で行われ、適切な鮮魚保蔵設備がないことから、小売り段階で取扱量の10～15%が損耗するなど、消費者に対して安定的かつ衛生的な環境での鮮魚販売が求められていた。

今回、柴田熔接工作所が手がけた支援のポイントは、製氷機やチラールームといった設備設置だけにとどまらず、その後のメンテナンスといったアフター体制を敷いたことが大きい。

同社は、欧州最大の製氷機メーカーであるジェネグラス社（本社・フランス）の日本国内における製造・販売の代理店であることから、世界各国の冷熱会社と協力体制を築き、最新の冷熱技術提供やサービス体制を可能にしている。今回、ブリカマ魚市場の製氷機など設備設置は、隣国・セネガルの代理店がサポートを行った。

ブリカマ魚市場周辺の様子

柴田社長は「現地で機械に何かあった場合、しっかりとしたアフター体制を敷かないと、機械を設置した意味がなく、それは決して真の国際支援といえない。当社の場合は世界各国にサポートネットワークを構築し、わざわざ日本から現地に技術者を派遣しなくても、隣国の技術者が設備のメンテナンスや運用者に対するアドバイスができる。ぜひ、ブリカマ魚市場に携わる方々が自立し、設備の有効活用によって生活向上につながることを期待している」と話す。

関連機器資材の調達もガンビア共和国の隣国で行ったことで、当初試算よりもコストは低額にとどまったこともポイントだ。ブリカマ魚市場は2月から運用が始まる。

を下方修正

古野電気

【西宮】古野電気（古野幸男社長）は8日、2010年2月期連結決算の当期利益を下方修

任の明確化により効率的な組織運用を図るため。

変更内容は企画・管理部に「CSR推進部」を設置。総務人事部を「総務部」と「人事部」に分離独立する。フードサービ

フードサービス事業部事業企画部長）児玉卓郎▽同人事部長（執行役員総務人事部長）渡辺文明▽同リテールサポート事業部長兼RS部長（同リテールサポート事業部副事業部長兼RS部長）山腰靖典▽同フードサ

三菱東京UFJ銀行公表
電信売相場（TTS,1通貨単位当たり円）
2010年1月8日現在

通　貨　名	TTS	前日

3回が
現わし
屋号な
丸は円
正月休
め。
「打
のが、
わる五
侍の多
都・大
シャン
様に神
の謡、
のキー
ないの

躍